

Q：我が故郷に断層はありますか？

A：浜通りには「双葉断層」という活断層があります。



「双葉断層」とは 宮城県亘理町付近から、いわき市久ノ浜付近に至る阿武隈山脈の東裾を走っておりますが、実際に危険視されているのは亘理から小高付近までで南北に連なる断層、従来は 100 年以内にマグニチュード 6.8 ~ 7.5 程度の地震が発生する確立はほぼゼロと判定されておりました。

ところが、政府の地震調査委員会は、東日本大震災を受けて全国の活断層を再評価する調査を実施した結果、次の 3 断層が大地震発生の確率高まると発表した。

福島第一原発に近い、宮城・福島両県にまたがる「双葉断層」

「糸魚川 - 静岡構造線断層帯」の一部で長野県にある「牛伏寺断層」

東京都と埼玉県にまたがる「立川断層帯」

ただし、具体的な発生確率は今回の手法では判断できない、としている。

双葉断層は今回の東日本大地震で地殻が大きく動き、断層にかかる力が大きく変化してストレスが溜ったことが推測され、シミュレーションで全国 100 余の断層を調査した結果、この 3 箇所が基準値を超えており、そのうち震源地に近かった双葉断層が一番危険性が高いと判断した。

もし地震が発生すれば、直下型なので震源地に近いほど甚大な被害が予想される。

今の段階では、どの辺と特定されてはいないが、今後の調査でどの程度絞り込めるか、不安は広がるばかりだ。